

ふくよか

2015春号

■長崎県病院企業団本部
■平成27年4月発行

目次 CONTENTS

p2 企業長より

迫りくる高齢化社会の認知症問題について

p4 特集① アイランドナースネットワーク事業について

広がるアイランドナース 歴代派遣者が集合しました

p6 特集② いよいよ対馬病院オープン!

新病院 ここが自慢です

p6 話題の職員紹介

島原病院に中村淳一事務部長が就任されました

p7 地域から

島原病院～温泉病院時代から来春で50周年～

p8 Break Time

[桜をながめつつ]



迫りくる高齢化社会の 認知症問題について

企業長 / 米倉 正大



最近、認知症問題はテレビや新聞報道などで大きく取り上げられている。国は数年前から各地域に認知症疾患センターを指定して、認知症に取り組んではいるが、十分に機能しているとは思えない。私は、脳卒中外科を生涯のテーマとしており、脳血管障害を繰り返したあと、認知症となった患者さんを数多く見てきて、この問題には特に関心がある。

昨年、安倍首相が「認知症の人が、安心して暮らせる社会を作ることは、世界共通

の課題だ。最速で高齢化が進む我が国こそ、社会を挙げた取り組みのモデルを示さなければならない。」と発言したことで、この問題はさらに新国家戦略としてヒートアップしてきた。

しかし、認知症を扱う現場ではそう簡単には、予防から始まり、その診断もまだ確立されていない。認知症という疾患の対応は、予防から始まり、その診断もまだ確立されているとは言い難い。認知症の始まりは、通院しながらの自宅での生活介助、中等度から高度認知症は、多くの職種と施設やシステムなどを複雑に絡み合わせて対処

しなければならない。現在は、精神科医や精神科施設が最初から主体的に対応するシステムとなっているが、これは誤りである。家族と地域と行政、それにかかりつけ医で取り組むシステムを作ることが先決である。精神科医やその施設が必要なのは、認知症が進行し予期せぬ事態になった場合だけである。

認知症の多くはアルツハイマー型である。1900年の始め、この病気に気づいたドイツ人の名前が現在までそのまま用いられているため、アルツハイマーの名称が、一般の人を惑わせている。

アルツハイマー型認知症発症のメカニズムは、その後の研究で、日常生活の中でβ-アミロイドタンパクが脳に

蓄積され、これが脳の神経細胞の機能を傷害し、脳機能を低下させた結果、アルツハイマー病になることがわかってきた。その原因は、一部ではその人の素因も関係しているが、多くはほかの原因で起こっている。

糖尿病、高血圧や肥満などの生活習慣病は、 ω -アマロイドタンパクが脳に蓄積するのを促進し、結果的にはアルツハイマー型認知症となり悪化していく。生活習慣病で全身の血管にコレステロールが沈着し、脳卒中や心筋梗塞の原因になっているのとよく似ている。この点が先ほど述べた精神科医が主体の対策が適当でないという理由である。さらに、病気ではないが筋肉や骨を使わないでいるとやせ細ってくるのと同じように、脳も使わないと ω -アマロイドタンパクが蓄積し、痴呆になることがわかってきた。

脳の使い方は別の稿に譲るとして、一点だけ言うと、多くの知識を記憶して、

それを吐き出す時の脳の活動(学校の先生を含め公務員の仕事というのは、小さな働きである。脳を使うというのは、経験してきた記憶で総合判断する時の脳の働きである。これが習慣付けられた時、痴呆脳とは無縁の脳になる。またおせっかい焼の人なども痴呆とは無縁の人である。

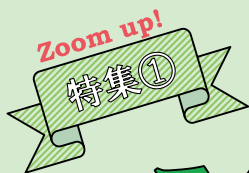
最近の報道によれば、血液中のある物質を測定すれば、 ω -アマロイドタンパクの蓄積程度がわかり、認知症の早期発見と進行状況がわかる。また ω -アマロイドの蓄積を減少させる薬も開発に取り掛かっていると聞いている。近い将来、実用化されれば、認知症の診断と予防及び治療に大いに役立つに違いない。その時はアルツハイマーという、いかめしい病名も消え、脳アマロイド過剰症などという病名になるかもしれない。

H27.4.1付 人事異動 長崎県へ転出された方のご紹介



H27.4.1付 人事異動により
4名の職員が長崎県へ転出されました。
県でのご活躍を期待しております。
ありがとうございました。

左から安永総務部長、町田係長、鳥越主任主事、山邊主任主事



6年目を迎えました！！

アイランドナースネットワーク事業について

今年4月で6年目を迎えたアイランドナースネットワーク事業について、事業概要や今後の抱負を高口看護指導監にお伺いしました。



長崎大学との事業協定書締結式にて（平成27年3月）

アイランドナースネットワーク事業とは？

「アイランドナースネットワーク事業」は、平成22年2月3日に長崎医療センターと長崎県病院企業団が協定を締結したところから始まります。当時の地元新聞には「本土から看護師派遣」という見出しで掲載されました。

療センター・長崎大学病院が加わり4施設となりました。派遣先も対馬いづはら病院・五島中央病院へと拡大し3施設と人事交流を行なっているところです。

現在、アイランドナースを体験した看護師は13名になりました。「離島へ行こう！」と思った動機は、人それぞれ違いますが、自分自身の振り返り、しまへの憧れと期待、研修期間とシステムが自分にマッチしていたこと等、いろいろな動機で自主的に手を上げてくれたことを嬉しく思い出します。

アイランドナース意見交換会とは？

都市部(ちよつとオーバーですが)の大規模病院から離島地域の病院へ人事交流を図ることにより、病院の活性化・職員の資質の向上、ひいては離島地域の医療の質の向上に繋がるとともに、離島病院の看護師確保の一助とすることを目的としています。当初は長崎医療センターと上五島病院の人事交流のみでしたが、5年の変遷を経て派遣元に、九州医療センター・嬉野医

拡大するアイランドナースネットワーク事業をより良いシステムにするために平成27年2月27日に、5年

目の節目として「アイランドナース意見交換会」を開催いたしました。

中堅看護師であるアイランドナースは、離島というこれまでと異なる環境の中で人事交流を図り、行ってきた看護活動の体験談を語ることにより内省し、将来のためのキャリアアップに繋がると考えたからです。

そして、次期候補者にとつては、情報収集の場として意見交換ができます。その結果、離島看護に対する認識と態度が変わり、スキルアップの意欲を増すことに繋がります。



～休日は“しま暮らし”を満喫しています～

す。また、貢献した看護師らを労うのも意見交換会の目的の一つでした。

これから、 どんな事業をめざすの？

派遣元の看護部長は大切な職員を派遣先に預けることになりません。季節が変わることに「どうしてるかなあ？」と心配しています。派遣者は心配をかけまいと努力し笑顔で応えて、しっかり役割を果たしていきます。これも、派遣先病院職員の皆さんの協力もあり実現できていることです。

アイランドナースは「しまの病院へのお手伝い」ではなく、人事交流を通して互いが成長する関係を望んでいます。この事業は、看護師不足を解消するためのものではなく、看護師として、人としての成長をもたらしていると確信しています。派遣先と

なる施設は、各派遣者のニーズを把握し離島特有の看護を盛り込んだプランに、個々の「スパイス」を追加してプログラムを完成させる必要があると考えます。

今後の私の役割は、派遣者と受入れ側のスタッフ双方から「welcomeメッセージやthanksカードをたくさん送れる関係になる事業に整えることだ」と思っています。

いつの日か派遣元の病院幹部の方々に、アイランドナースの成長を実感していただく日が来ますように努力してまいります。



アイランドナースの感想

- ・地域医療に対する理解と視野が広がりました。
- ・患者さんの退院後の生活を視野に入れた看護の必要性を感じました。
- ・幅広い看護体験により学習の必要性を感じました。
- ・派遣元で努力してきたキャリアが報われました。
- ・限られた資源の中で“考える力”が身に付きました。チームで協力し合える職場づくりが必要だと思いました。
- ・自分の将来を考える機会になりました。



1期生から5期生のアイランドナースたち
みんなこんなに成長しました！

いよいよ対馬病院オープン！

皆さんもご存じのとおり、対馬いづはら病院と中対馬病院を再編統合し、5月17日(日)、浅茅湾に面した自然豊かな場所に『対馬病院』が開院します。2病院の統合は、人口減少・高齢化が急速に進行するなか、対馬島内における継続性ある医療を確保し、より医療機能の高い病院とするため、関係各位のご理解、ご協力のもと、すすめられてきました。引きつづき住民の皆さんから信頼される病院をめざして、職員一同がんばります！！

ここが自慢です！

- **県内離島初！放射線治療装置（リニアック）を導入**
→がん患者の医療の向上が期待されます
- **ハイケアユニット（HCU）8床を設置**
→救急部門が充実します
- **「緩和ケア放射線科」など6つの診療科目を増設**



(リニアック)

◆長崎県対馬病院

〔構造〕
RC造・5階建・**免震（企業団病院初）**
〔延床面積〕
20,360.34㎡
〔病床数〕
275床
〔一般222床、精神45床、結核4床、感染症4床〕

▲経費の高騰や慢性的な職人不足など、22カ月の工事期間中にさまざまな出来事に見舞われましたが、施工者の努力により影響を最小限に食い止めることができました！

お知らせ

- **開院式・開院祝賀会**
平成27年 5月 9日（土）10:00～
- **住民向け内覧会**
平成27年 5月10日（日）

話題の職員紹介

Vol.3

今回は、島原病院の中村 淳一（なかむら じゅんいち）事務部長にご就任にあたっての想いを語っていただきました。



みなさん はじめまして。4月から長崎県島原病院でお世話になります中村 淳一と申します。よろしくお願ひします。

3月末日、国立病院機構九州医療センターを最後に、国立病院勤務を卒業しました。昭和53年に入職以来37年間、5ヶ所の国立病院・療養所と地方医務局（厚生局）、国立病院機構九州ブロック事務所を経験してきました。それぞれの地において貴重な経験をさせていただきました。

今回の卒業にあたり、長崎県病院企業団から温かいお誘いをいただきました。いろいろと思いを巡らしましたが、最終的には「これまでの経験を企業団病院で活かしてほしい」とのお誘いに応えるのが一番の選択だとの思いにいたり、お受けすることにいたしました。重責に大きなプレッシャーを感じておりますが、微力ながらも活力ある病院づくりに精一杯尽力したいと考えております。

長崎県での勤務は、長崎医療センターの2度の勤務を含め3度目ということもありますが、少なからず親近感を持っておりま

す。私の出身は沖縄本島の最南端に位置する糸満市です。漁師町ということもあり、旧暦文化が色濃く残っており、長崎のペーロン祭りに似た糸満ハーレー（爬龍船競争）という海神祭が盛大であること、また、私自身ランタンフェスティバルは拝見しておりませんが、春節にあたる旧正月も昔ながらの年中行事として息づいていることなど、長崎と共通した部分があるからではないかと思っております。

縁あって、今回の過分な機会をいただきましたことを常に肝に命じ、2025年における島原病院の立ち位置を確立し、地域唯一の公的病院として目標とする

- ①患者さん本位の医療の提供
- ②地域医療機関との機能分担、連携の強化・推進
- ③人材育成
- ④経営の健全化の達成、実現

に向けて、職員の皆さんとともに一丸となって取り組んでいきたいと考えております。手始めは、不慣れでお手間をお掛けすることもあろうかと思いますが、早く皆さんに追いつき、追い越せて労して勤めたいと考えております。ご指導、ご鞭撻のほど重ねてよろしくお願い致します。



{シリーズ} 地域から

Vol.3

島原市（島原病院）

地域の見どころや病院での取り組みなどについて
紹介していただくコーナーです

▶ 島原のみどころ

島原半島は、約50万年前の火山噴火によりできたとされています。

火山は普賢岳災害のように時に大きな災害をもたらしますが、その一方で、噴火による肥沃な土壌を利用した農業・畜産を盛んにさせ、日本で最初の国立公園に指定された雲仙、島原・小浜の温泉や島原の湧水群、ジオパークの体験観光、島原半島の変化に富む景観等、普段は多くの恵みを与えています。

また、自慢の名物は夏から秋が旬の「たいらがネ(ワタリガニ)」や「ガン（棺桶）を横に用意してでも食べたいというガンバふぐ(トラフグ)」など海の幸や、島原の歴史の中から生まれた名物の「そうめん」、「具雑煮」や「六兵衛」、「かんざらし」など趣が感じられる逸品があります。



▶ 温泉病院時代から来春で50周年

「島原大変、肥後迷惑」で有名な眉山の断崖絶壁を背後にした地に、昭和41年、温泉を利用したリハビリ主体の「長崎県立島原温泉病院」として開院してから来春で50年になります。（現在の病院は、平成14年に新築）

▶ 島原病院が目指しているもの

医師の退職に伴い常勤医が不在となる診療科が発生する等、医師不足が病院運営の不安定要素として常に存在していますが、企業団移行に伴い取り組んできたDPCや7：1看護体制への移行、業務委託の推進等により経営基盤の強化が図られつつあります。

今後とも、島原半島の中核病院として、かかりつけ医と連携して、半島内においてできるだけ医療が完結できるよう、信頼される病院を目指して取り組んでまいります。



桜をながめつつ

花といえば桜。皆さん、今年はいかがでしたか。年度の変り目は忙しくてそれどころではない、という人もいらっしゃると思いますが、私は、毎年近所はもちろん、県内あちこち出かけて楽しんでいます。

満開になって花びらが風に吹かれて散る風情もいいのですが、私がとくに好きなのは満開前の雨上りです。水分を吸った幹と枝が黒さを増し、柄の緑とともに花びらを際立たせるのが何とも言えません。また、夜になるとちょっと冷えますが、闇にライトアップされるのも幻想的で捨てがたいものがあります。

桜を見てよく頭に浮かんでくるのが、竹内まりやの名曲『人生の扉』です。

♪♪春がまた来るたび ひとつ年を重ね 目に映る景色も 少しずつ変わるよ～
満開の桜や色づく山の紅葉を この先いったい何度見ることになるだろう～♪♪

昔から花見は好きでしたが、若いときは花そのものよりも仲間のおしゃべり、一緒に食べたり飲んだりすることが主眼で、桜はそのための脇役だったような気がします。それが、50代も後半にもなるとこの歌詞が心に沁みてきます。ほんとうに今のように頭と体が満足な状態であと何回見ることができようか、仮にあと数回しかないとしたら、どういった気持ちで花に接するのだろうか、と考えてしまいます。

桜は人をにわか詩人にするのでしょうか、少し感傷的になってしまいましたが、興に乗じて桜ならこれという西行の和歌をひとつ。

願わくは花の下にて春死なむ ^{きさらぎ}その如月の望月のころ

なお、西行が生きた時代はまだソメイヨシノは存在しておらず、桜といえば山桜のことだったそうです。

私にはそこまでの思い入れはありませんが、来年も桜を心から楽しめるようにするためにも、この1年間頑張っていこうと思い定めているところです。

企業団職員のみなさま、平成27年度もよろしくお祈りします。



(文：副企業長 川良数行)

編集後記

みなさん、こんにちは。「ふくよか」を初めてご覧になれる方、はじめまして。

壱岐病院の加入とともに平成27年度が始まりました。

新たに病院企業団に赴任された方、人事異動で所属や部署が変わられた方、

新しい環境には慣れたでしょうか？

本部にも4名の方が転入されました。今年度も一致団結してがんばりましょう。

(ふくよか編集担当)

よろしくお祈りします！



本部へ転入されたみなさん

ふくよか

表紙のはなし 壱岐病院加入
平成27年4月1日、多くの方々の列席のもと、病院企業団に加入した壱岐病院の除幕式、開院式及び祝賀会が執り行われました。「長崎県壱岐病院」として新たにスタートします。

平成27年4月発行
編集・発行／長崎県病院企業団本部
〒850-0033 長崎市万才町4-12 日本生命ビル旧館6階
TEL.095-825-2255 FAX.095-828-4759
E-mail : honbu@nagasaki-hosp-agency.or.jp
URL : http://www.nagasaki-hosp-agency.or.jp/



長崎県病院企業団

検索